

昭和三十七年十二月二十五日招集
第四回市議會定例会之議錄

昭和三七年度館山市議会第四回定例会々議録(第一号)

昭和三十七年十二月招集

一十二月二十五日(大曜日)

一現在議員三三名でその氏名次の通り。

一 番	山本 昇	二 番	石井 孝
三 番	三沢 節	四 番	小林寅之助
五 番	江田徳太郎	六 番	鈴木彦太郎
九 番	吉田勇治郎	一〇番	佐野 信
一二番	嶋貫壮作	一三番	安沢徳順
一四番	法木嗣郎	一五番	嶋田 繁
一六番	遠山ヨネ子	一七番	志村信作
一八番	安西政治	一九番	田中忠蔵
二〇番	北山茂雄	二一番	後藤ゆき
二二番	田中祿郎	二三番	吉田辰雄

二四番 飯田義男 二五番 脇田順一

二六番 岩崎静敬 二七番 鈴木市藏

二八番 加藤良太郎 二九番 荻生田七郎

三〇番 長谷川光江 三一番 田村喜兵衛

三二番 鈴木孝 三三番 山口幸三

三四番 松本藤太郎 三五番 黒川佐太郎

三六番 山口 康

一 議事日程(第一号)

報告第一五号 昭和三七年十月例月検査報告

報告第一六号 昭和三七年十一月例月検査報告

報告第一七号 昭和三七年十二月例月検査報告

報告第一八号 監査報告について(小・中・高校幼稚園)

青年學級に關する監査報告

第二報告第一四号 館山ユースホステル条例の一部を改正する

条例の制定に関する専決処分報告

第三 請願書

(房南中学プール松下)

第四 認定第一号

昭和三六年度館山市歳入歳出決算

認定第二号

昭和三六年度特別会計公益債屋ヤ入

出決算

認定第三号

昭和三六年度特別会計国民健康保険

ヤ入ヤ出決算

認定第四号

昭和三六年度特別会計済左間及び加賀

名地区簡易水道ヤ入ヤ出決算

認定第五号

昭和三六年度特別会計と畜場ヤ入

出決算

認定第六号

昭和三六年度特別会計休養施設ヤ

入ヤ出決算

第五 議案第六五号

館山市職員定数条例の一部を改正す

る条例の制定について

第六 議案第六号 館山市市税条例の一部を改正する条例の制定について

第七 議案第六号 昭和三七年度十二月に支給する期末手当の特例に关する条例の制定

第八 議案第六号 起債について

第九 議案第六号 館山高等学校埋立工事請負契約の締結について

第十 議案第七号 一 取処施設さく井工事請負契約の締結について

第十一 議案第七号 館山市域水資源の調査委託契約の締結について

第十二 議案第七号 昭和三七年度館山市入支追加更正予算案第七号 昭和三七年度館山市特別会計国民健康保

入文出追加予算

議案第七四号

昭和三十七年度館山市特別会計と畜場文

第十三

入文出追加予算

議案第七五号

昭和三十七年度館山市特別会計波左間及

比加賀名地区簡易水道事業文入文出追加予算

議案第七六号

昭和三十七年度館山市特別会計休養施設

文入文出追加更正予算

一 法第二百二十一条による出席説明員

市

長

本間

讓

助

役

小出武男

収

入

役

完戸

貴

総務課長

山口

実

秘書課長代理

小倉澄男

税務第一課長

高木哲三

税務第二課長

多田俊一

厚生課長

伊藤幸太郎

商工水産課長

干場伊右衛門

福祉事務所長

長谷川玄治

観光事務局長

畠山市治郎

保険課長

神作啓次郎

農産統計課長

吉田耕一

市民課長

利田正男

建設課長

新井重助

選管書記長

大嶋重義

企画室長

谷貝茂生

消防署長

安藤竜吉

一本議会の事務局長、書記及び取員

事務局長

高梨清一

書

記

太田博雄

同

兵藤恭一

取

員

錦織睦子

一出席議員

三二名

一欠席議員

一名

二四番

飯田義男

午前十時開会

議長(山本昇君)本日出席議員数 二九名。

こいより第四回市議会定例会を開会いたします。
本定例会に本間市長、小出助役、完戸収入役、山口
課長、新井課長、利田課長、吉田課長、神作課長、
高木課長、伊藤課長、長谷川所長、多田課長、
谷貝室長、大嶋書記長、安藤署長、小倉主事、
干場主事、高山主事、工藤教育長、鶴沢課長以上の
出席を求めましてこので中報告いたします。

会議録署名員の決定を行います。

本定例会の会議録署名員に四番議員小林寅之
助君、六番議員鈴木彦太郎君、以上両君を指
名いたします。こいに中異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(山本昇君)中異議なしと認めます。よって決定

いたします。

会期の決定を行います。

本定例会の会期につき議会議会運営協議会の意見は本二五日と二六日の二日間ということであり、おのかりいたします。会期を二日と定めますことに市議員ごさいせんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(山本昇君)市議員なしと認めます。よつて会期は二日間と決定いたします。

こう際去る十一月三十日の本市市長選挙においてめでたく当選された本間譲君を紹介いたします。

(市長本間譲君登壇) (拍手)

市長(本間譲君)就任の挨拶を申し上げます。

このたびの市長選挙に際しましては、市議会議員各位はトめ、市民の皆さまの方の絶大なる御支援をいただきまして、めでたく当選の栄に浴することを得ましたこと、おまことに感謝に耐えない次第でございます。

取二四日市長の事務引継ぎも無事終了いたしました。ここに館山市政を担当することになりました。何分にも無経験の一年生でありますので、今からドツクリ勉強して参りたいと念じております。こゝから四年間私の市政担当の方針に關しましては、昭和三八年一月の初市会において発表したいと思ひます。かように考える次第でございます。市政の伸展ということには、まず議会の絶大なる御協力があつては、トめ、果して得るものと確信いた

ております。

市長といたいます。これから四年間熱意と誠意をもちて微力を捧げて参りたいと考えっておりますので議員各位におかします。十二分の応援と市協力を賜わりますよう衷心よりお願いいたします。次第でございます。ここに市長就任の市挨拶といたします。どうぞよろしくお願いいたします。

(拍手)

議長(山本昇君) 暫時休憩いたします。

午前 一〇時 一二分 休憩

午前 一時 二五分 再開

議長(山本昇君) 休憩前に引き続き会議を開きます。

本日議事はお手元に配付の日程表により行います。

こゝより本定例会の議案の内容について市長の説明を求めます。

(市長 本間譲君登壇)

市長(本間譲君)本日提案いたしました議事事件につきまゝ概要を申し上げます。

本定例会に上程いたします議事事件はまづ昭和三六年度各会計の決算の認定でございます。

次に条例の改正及び特例に関するもの四件、工事請負、その他契約に関するもの三件、本年度予算関係におきまゝ一般会計及び特別会計のうち、公益債、屋敷を除く五会計に関するもの、追加更正予算でございます。更に最近ワケウ

許可が内定いたしまして起債に伴いまして法に定めらるるおります議決をいたたく件と会計一三議案となります。

議案の概要につきまして申し上げます。

まず、報告第一四号館山市ユース・ホステル条例の一部を改正する条例の制定に关する専決処分報告でございますが、これはユース・ホステルの料金、それが運輸省告示となります早急に実施する関係で去る一月一日市長において専決処分をいたしまして、たゞ、法令の規定によりまして本会議会へ承認を得たくお願いする次第でございます。

次に決算の認定でございますが昭和三十九年度各会計の決算を終了いたしまして、監査委員の審査に付しまして、その意見書を添えまして、議

会の認定に付するものであります。

次は議案第六五号でございます。

館山市取員定数

条例の一部を改正する条例の制定についてであります。
こゝは、高等学校取員中、養護教員を一名増員
するための改正であります。

次は議案第六六号、館山市税条例の一部を改正する
条例の制定についてであります。こゝは、地方税法の
改正に伴います条例の整備でございます。主たる改正
は、市民税の税率適用区分の改正であります。

次は議案第六七号、昭和三七年度一二月に支給する
期末手当の特例に資する条例の制定についてであり
ます。こゝは、本年一二月期末手当の額につきま
たは、議員については二九割支給、常勤取員については二
四割とし、勤勉手当と合わせて二九割と定めるよう

処置する持例でございます。

次は議案第六八号起債についてであります。これはかねてから県に対してより深く要請を続けて参りまして、とうとうであります。ようやく最近に至りまして、館山高校整備に一千万円、船形漁港修築工事の負担金債として二百万円、それぞれ県知事の認可額が内定いたしまして、これにつきまして関係条項の議決をお願いいたしたいとするものであります。

次は議案第六九号、館山高校敷地埋立工事の請負契約締結についてであります。これは指名競争入札の結果三百九十八万五千円をもって大千葉建設株式会社と契約しようというものでございます。

次は議案第七〇号、取処理とく井工事請負契約の締結についてであります。目下、谷藤原地区に建設中

であります。し尿処理の用水確保のために井戸を掘るわけでございます。これを日本地下開発株式会社に百五十万六千円で請負契約させようというものでございます。

次は議案第七号館山市域水資源の調査委託の請負契約についてであります。これは本市全域にわたります。水資源の把握をする。東京設計事務所所に委託しようというものでございます。

次に第七二号昭和三十七年度館山市歳入歳出追加更正予算でございます。追加額千六百八十五万六千円となります。主たる内容といたしましては、人件費が八百四十四万三千六百円、その他八百四十万七千円あります。その他の経費中、国民休暇村道路新設工事費負担金四百五十万、高等学校増築工

事業費百三十万円などであります。こゝらう財源と
まゝ市債におゝ千百万円、前年度繰越金三百五
十万円、教育寄付金百三十万円、県及び国から補
助金と交付金で約八十八万円などをもつて充当する
予定であります。

次は議案第七三号昭和三七年度館山市特別会計国
民健康保険歳入歳出追加予算であります。

追加額五十二万円、財源は金額前年度繰越金をも
つて充当する計画であります。歳出追加うゑもな
もつといたうゑも、期末手当及び超勤約三十一万
円、その他は診療所の医療関係の主要な経費
であります。

次は議案第七四号昭和三七年度、館山市特別会計
と場、歳入歳出追加予算であります。こゝは今回

の期末手当不足額三千百円の追加であります。

次は議案第七五号昭和三十七年度館山市特別会計波
左由及び加賀名地区簡易水道歳入歳出追加予算で
あります。これは水中ポンプ修理費等約十五万円
電気料の不足額一万円、計十六万円、これが財源は繰
越金と寄付金をもちつゝ充当いたします。

次に議案第七六号昭和三十七年度館山市特別会計
休養施設歳入歳出追加更正予算であります。これ
は歳入の追加更正はございせんが歳出において原材料
費二十万二千円を減額更正いたしまして人件費を二
十万二千円追加することになったものでございます。

各議案につきまして、それぞれ上程の都度関係課長
から詳細に説明申し上げる予定でございます。う
へ、慎重に審議の上、予算同下さいますようお願い申し

上げます。

議長(山本昇君) 日程第一報告第一五号乃至第一八号を
上程いたします。

(書記朗読)

報告第一五号

昭和三七年一〇月例月検査報告

報告第一六号

昭和三七年度一二月例月検査報告

報告第一七号

昭和三七年度一二月例月検査報告

報告第一八号

監査報告について

(二二番議員田中祿郎君登壇)

二二番(監査委員田中祿郎君)報告第一五号一〇月例月検査
の結果を報告申し上げます。

市税九月中における収入八百二十五万五千円累計額
は九千百六十九万九千円となります。

九月末の正味延滞額は二千六百九十四万五千円であ

ります。納期到来分の収入歩合は七六・一％という結果を示しております。

税外収入は地方交付税の二千七百五十七万八千円、消防自動車購入等の消防寄付金二百十一万五千円などが収入されております。

九月中の支出につきましては、公債費において元金の償還金百四十万二千円及び利子の百二十四万四千円の支出が小さくなっております。

特別会計につきましては、お手元の表によつてご覧いただくたいと存じます。

報告第一六号一二月例月検査について申し上げます。市税一々月中における収入は千二百九十万円、累計では一億四十五万九千円となっております。一々月末の正味の延滞額は二千六百四十四万三千円であります。

納期到来分の市税の収入割合は、七九・四％となり、
ます。

支出につきましては、乗用車購入百十五万五千円、船形
漁港修理工事費負担金百万円、及びし尿処理施設
工事費四百四十万がおもなものでございます。

特別会計につきましては、お手元の表による中覧
いただきたいと思います。

次に報告第一七号十二月例月検査について申し上げます。
市税十一月中の収入は八百一十八千円、そのおもなものは
市民税の五百六万四千円、固定資産税六十七万五千円
たばこ消費税二百十一万三千円。

収入未済額八千二百五十五万三千円につきましては、
納期の到来しないもの五千七百十九万三千円、納期ま
に納付したもので二百八十六万六千円を引きますと、正味

滞納額は二千七百八十二万六千円となり、その内訳は、
現年度分、千六百六十五万四千円、繰越分、千百十七万
二千円となっております。

納期到来分に対する収入歩合は、七九・八％を示しております。

税外収入につきましては、地方交付税二千七百五十七万七
千円、競~~繰~~収入五百三十万等が主な収入でございます。
十一月中の支出につきましては、消防庁舎工事費七
百万円、館山高校校庭土地購入費百八十四万七千円、富
崎小学校講堂建築費二百六十八万円、市営住宅建
設費二百五十万円、街路灯建設補助金百三十五万
円等が主な支出となっております。

一月末の歳出執行率は五〇・三％という結果で
ございます。

なお特別会計につきましては、表にうつす中、了承願いたいと思ひます。

次に報告第一八号監査報告について申上げます。一二月の五日から二八日の間に幼稚園、小、中、高校及び青年学校について出納事務、その他を監査いたしました。監査の結果について申上げますと、保育料授業料の徴収は、正確に行われておりまして間違つたことはございません。

備品の保管状況については、それぞれ整備されておりました。各校とも修理できない破損品とか物品の保管が見受けられますので、適当な時期に、おいて処分をすゝるとか、研究の上、処理されることば望ましく、いさうに考えられまして、校舎等、戸締りは、なおおむね良好でございます。たが消火施設につ

きまゝでは、消化器の増設等いつぞう配慮された
いと思ひます。

以上をもちまゝ例月検査及び学校監査の結果の
報告を終ります。

・一二番(鷗貫壮作君)十一月末の決算報告書の中ぐま
だ調定しない税金がどの位ありますか。

・税務第一課長(高木哲三君)調べてすぐ報告いたします。
・議長(山本昇君)暫時休憩いたします。

午前十一時四二分 休憩

午前十一時四五分 再開

・議長(山本昇君)休憩前に引き続き会議を開きます。
・只今十二番議員の質問に対し、当局から後刻

改めて此報告申し上げるといふことで了解願いたいと思います。こゝに此異議ございせんか。

(「異議ナシ」と呼ぶ者あり)

議長(山本昇君)此異議ナシと認めます。以上報告第一五号乃至第一八号報告の通りでございますので此了承願います。

日程第二報告第一四号を上程いたします。

(書記朗読)

執報告第一四号

館山ユース・ホステル条例の一部を改正する条例の制定に関する専決処分

報告

・福祉事務所長(長谷川広治君)報告第一四号について此説明申し上げます。本件は県より委託を受けて経営をしておりますユース・ホステルの宿泊と集会の料金を

が国の告示によつて変更をいたしましてたので、その関係で
提出したものでございますが、当初の予算審議のとき
に予説明申し上げたかと存じます。国は宿泊料
百円を二百円に集会室の使用者のうち、冬期に暖
房をたきますので、その使用料十円を値上げを九月一日
から行う。こういう予定で当市をいたしまして、予
算編成をいたしたわけでございますが、国のいろいろ
の都合で九月一日付で改正をいたしたというふうな文
書が一月の八日に当市に届きましたので、経営上
から考えまして、早急に料金の改定をいたしたい。かよ
うに考えまして、一月一二日付で専決処分をいたしたもので
ございます。

わかりましたものといまして、宿泊料が今まで
百円でございまして、それが二百円に増額をされ

まいた。それから暖房が夜間の使用料だけで、十
円という規定でございまして、昼間と申しますか、
午前一時から午後三時までの間に集會室を使用
する。こういうものに対して、暖房をたいるおれば十
円徴収ができる。こういうことで改正をいたしたもうが
ございます。その改正の内訳と申しますか、料金表
は条例第二号として添えてございますので、ご覧
いただければわかると思います。あとのものは、改正
でございせん。これは、一月一日から実施をいた
した。い。かように考えております。

一七番(志村信彦君)只今、中説明の中で集會室の使
用の十円というのは、これで引合うのですか。

福祉事務所長(長谷川広治君)集會室の使用として、二十
円でございますが、冬期の間、暖房をたく料金が十円

増額さへ結局三十円ということになるわけでございます。

議長(山本昇君)おわかりいたします。報告第一四号
原案通り承認いたしますことに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(山本昇君)御異議なしと認めます。よって本案
は原案通り可決されました。

日程第三、請願書を上程いたします。

(書記朗読)

(一五番議員 鳩田繁君 登壇)

一五番(鳩田繁君)紹介議員を代表いたします。一言申
—述べたいと存じます。

請願書に詳細記載してございまして、私が蛇足を

添えるまでもございせんが、ただここで申し上げたいことはほとんど国有地が学校の校庭の一部というふうなことになるっておりまして非常に学校のためにと、うーてもあかを繞けて校庭につながらなくてはならぬ場所であります。それからプールはまことに立派なプールでありまして、あそこに学校ができたと同時に作ったものでありますから、立派なものであります。

このプールにつきまして、また国有地につきまして、今まで何回となく、管理局から文句を受けております。その都度、頭を低くいたしまして、学校と、教育委員会と、まあ願ひいまして、なかなか意の如くしてくれない。たまたま今回強い抗議がございまして、使用してはならぬということになつて参つたのでございます。

考えて見ますと、プールをあのまき捨てて置きますと、非常に衛生上環境がよくない。やはり生徒は掃除をしてやらなくてはならぬ。こういうふうな生徒に非常に大きな負担をかけるわけでありませう。なおプールがすぐ目の前にあつて子供を泳がせないということさえ子供は異様な感をもつのでありまして、学校は無断で使つてゐる。そうして管理局からおこごとを頂戴してゐる。生徒は全く何うことやうほとんど理解がつかぬと思つております。こゝは教育上の影響非常に大きいことを意味してゐるのでございます。

さういった見地からこの際、市当局におきまして、委員会におきまして力強い折衝をしていただいてさうして、あゝを市に払い下げて貰ひましてそこに明記してある学校の生徒、その他青年当りもよく使うので

ありますから、体育上の面からいっても払下げて貰いたい。そうして自由に力いっぱいあれを活用してもらいたいというのが、請願の趣旨でございます。どうぞ実情をおくみとり願いまうと皆さんの中賛同にしようことを採択していただきたい。こう存するものであります。一言、お願い申し上げます。

・議長(山本昇君) 只今の請願書につきまうて中意見中質疑等ございませんか。

・二九番(荻生田七郎君) 只今請願の内容についてお話があったのでありまするが、当局はこゝまで管財局千葉財務部でありますか。あちうから抗議が申し込まれたということについて払い下げ、或いは一時借入れ等々につままうて中折衝があつたと思うのでありまするが、この請願書の内容を拝見しますと

とうとつくの昔にこういたもうは自由に使わしても
差一つかえないと思う。無理解さわる態度方針
のように思うのであります。今まで折衝した経
過についてどういう内容になっておりますか。

・教育長(工藤和平君)この由題は今年一月の何日かに
関東財務部千葉支局長の名で国有地を無断
で使用している疑いがある。従って注意するよう
にという通知を受けたのであります。

私どもも寝耳に水といったような形でありまして、校長
を呼び寄せましていろいろ実情を調査したのであります
すが、大体精願書に書いてありますような事情で
終戦後荒廃のままだに捨て置かれたプールが衛生上か
らも安全教育の上からもちまことにゆゆしい問題であ
る。学校として放置することができない。こういう

実情のもとに清掃を実施したのであります。

清掃を実施する際にどこが保管してあるかどうか
ということが問題になりまして農業協同組合が
払下げたのだ。こういうことを聞いたのでありま
す。それから二九年の七月になりまして、初めて子
供たちの水泳を実施したというのが実情でございます。
その使用期間は七月中旬から一週間、わずかな期
間使用したわけでありす。そこでこの実情を知
つて副甲を付けてやりました。その副甲の中に所
属が誤ったためのもので故意ではないということか
一点用いた期間がきつめて短かいということ。一かも
国有地のものであるのだが、実は学校当局がその
管理に任じた。この三点を付けて稔便の処置を
願いたいということを書いてやったわけでありす。

そういたしますと、それに対する返事はございまして、
一たび、教育委員会におきましては、この問題を
取り上げまして短期間の使用であるから、大した金
は、取るまいと思うので払い下げをいたすかどうかとい
うことを議したのでありますが、短期間の使用の
ために、広い土地を買収するということでは、財政上
ちっと無理ではないか、敷地に関しましては各学校の
敷地は個人のもうもある、国有地もある状態で
短期間使用するプールや広い土地を買収するとい
うことになる点があるわけでございます。従つてこれ
は、保留にいたします。そこで考えられますことは、
国有地を学校が管理してゐるのであるから、委託
管理という名目で端的に申しますと、ただで使用する
てくれませんか、こういうことを申し込んであげて

ございます。さうしますと、これもなるべく断わられまして、国有地を無代で貸し与えるということはありません。ということでは、破綻にひきまわした。そこで十月二十九日プールとプールの敷地の払い下げの代金を知らしめてくれということ^を文書をもつて照会したのであります。さうしますと、今にその返事がございませんので、過ぐる日に電話で照会いたしまして、たところ正式の払い下げの要求書を出さぬやうに文書で答えるわけにはいかないということと、近日中に出向きまして話をしに参りたい。こう考えております。

二九番(荻生田七郎君)大体わかりました。国有地の管理という問題は国が出さなければならぬ。それを正式管理事務というか、委託を受けるようにしてあげばよかつたのであります。宮城の水道の例に見る如くたゞ

でもらえる。そういうふうには管理しておけば、普通の
場合でも、管理していかなくても公共団体が使う場合
においても、半額ということになってゐる。——かゝる特別の
事情があれば無償で払い下げるということが明記してある
ですから、そういう手続を速やかにやつてもらつて払い下
げをしての方がいいのではないか。速やかにその処置をと
つてもらいたいということをお願ひ——して請願書
全面的に採択に賛成いたします。

・議長（山本昇君）おわかりいたします。日程第三請願
書採択いたしますことに仰異議ございませんか。
（「異議なし」と呼ぶ者あり）

・議長（山本昇君）仰異議なしと認めます。よつて本請
願書は採択されました。なお、この取扱ひにつきま
しては、市長並びに教育委員会の方に送付いたし

ますので、了承願います。

暫時休憩いたします。

午後 〇時 〇五分 休憩

午後 一時 二〇分 再申

・議長(山本昇君) 午後 〇出席議員数 二七名。

休憩前に引き続ぎ会議を申します。

日程第四、認定第一号乃至第六号、昭和三六年度一般会計並びに特別会計の決算書を一括して議題
といたします。

(書記朗読)

認定第一号 昭和三六年度館山市歳入歳出決算

認定第二号 昭和三六年度館山市特別会計公益債屋敷

入歳出決算

認定第三号

昭和三六年度特別会計国民健康保険歳入歳出決算

認定第四号

昭和三六年度特別会計波左内及び加賀名地区簡易水道歳入歳出決算

認定第五号

昭和三六年度特別会計と畜場歳入歳出決算

認定第六号

昭和三六年度特別会計休養施設歳入歳出決算

(市長本間譲君登壇)

市長(本間譲君) 只今提案いたさうとした昭和三六年度一般会計及び特別会計決算につきまして、市監査委員の監査を得ておりますが、いろいろ中實向の点はいづれ私さへは、関係者から答弁申し上げますが、よろしく

中認定のほどもお願い申し上げます。

議長（山本昇君）以上で説明を終わります。

こゝより認定第一号兼乃至第六号について一括質疑を行います。

三番（三^次節君）動議を提出いたしたいと思ひます。

（三番議員 三^次節君登壇）

三番（三^次節君）こゝ際、動議を提出いたしたいと思ひます。

只今議題となつております認定第一号乃至第六号、

昭和三十六年度一般会計並びに特別会計決算書の

審査につきましても従来例もございしますし、極

めて慎重に審議を行う必要があろうかと思ひます。

とともに相当の日時を要するかと存するわけでござい

ます。よつて決算審査特別委員会を設置し

たいまゝその期間を三月の定例会までと一審

査を願うように付託をしますように、ここに議会運営協議会を代表いたしまして、議事進行の動議を提出いたす次第でございます。なお従来例にならぬ、まして委員の数は一名とし、選任の方法はこゝまで申し合はせにより議長監査委員を除き、今回は任期最終の年でありますので、今まで決算委員にならなかつたものを優先いたし、不足数は議長指名により選任いたしたいと思ひます。

以上申し上げまして、満場の片賛成を得たく、ここに願ひする次第でございます。

(「賛成」と呼ぶ者あり)

・議長(山本昇君)

只今、三番議員君より提出された議事進行の動議を議題といたします。

只今の動議は認定第一号乃至第六号は慎重審議の必要上、特別委員会を設置してこれに付議特に内閣中の審査の特別付託をいたしたいということとであります。

おわかりいただきます。これに付異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(山本昇石)付異議なしと認めます。よって決まりました。

重ねておわかりいただきます。本動議によりますと、委員の数は一名選任の方法は議長、監査委員を除き本任期中、今まで決算委員にならなかつたものを優先し、他は適当な方法で選考し、議長

において指名することとあります。これに付異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(山本昇君)異議なしと認めます。 ところで決まりました。

暫時休憩いたします。

午後一時三十分

休憩

午後一時三十分

再開

議長(山本昇君)休憩前に引き続き会議を開きます。

こゝより決算審査特別委員会へ委員を指名いた

します。

二番議員

石井孝君

五番議員

江田徳太郎君

三番議員

佐野信君

三番議員

鳴賀壮作君

四番議員

法木綱郎君

二番議員

北山茂雄君

二番議員

後藤ゆき君

二七番議員

鈴木市蔵君

ニハ番議員 加藤良太郎君 三四番議員 松本藤太郎君
以上一〇名の方を決算審査特別委員会に委員に選
任いたします。

これにや異議ございませんか。

（「異議ナシ」と呼ぶ者あり）

議長（山本昇君）異議ナシと認めます。よって決ま
り。只今選任されました委員の方々は本日中に
正副委員長と互選をしまして議長まで中報
告下さるようお願いいたします。

日程第五議案第六五号を上程いたします。

（書記朗読）

議案第六五号 館山市設置定数条例の一部を改正

する条例の制定について

・教育長（工藤和平君）提案理由を申し上げます。

・ 館山高校の取員でございしますが、取員の定数などの関係で養護の教諭が時間講師という身分でございまして。ーかーながら、ゆ案内のように館山高校は生徒の急増の時期でもございましてー。加えまして生徒の健康管理の面、それを考えますときに専任の教諭にーたいという考えから、養護教諭とー、一名増員にーたいというものでございします。なお、この者は勤務成績も良好でございします。

もう一人は事務の取員でございしますが、これも定数の関係で事務補佐員でございまして、ただ、生徒の数が増すとともに所管事項がだんだん多くなる関係を考えますときに、これまで成績が良好であり、勤務年数も永いので、こゝろを勘案いたしまして昇格をーたい。こういう考えでござい

ございます。

議長（山本昇君）おわかりいたします。議案第六五号
討論省略原案通り可決いたしますことに決
議ございませんか。

（異議ありと呼ぶ者あり）

議長（山本昇君）異議ありと認めます。よつて本案は
原案通り可決されました。

日程第六議案六六号を上程いたします。

（書記朗読）

議案第六六号 館山市市税条例の一部を改正する

条例の制定について

。税務第一課長（高木哲三君）作説明申上げます。

第三四条の上欄を下欄のよう改める。これは地方
税法の改正でございます。一、十萬円以下の金額、これは

今まで百分の二、これが十五万円以下ということになります。

三四条の五、これは、今度機械が入りまゝの肉類上、
消費易税額表を使わずにやるようになりまゝの
で、それを廃止するということでございます。

七八条、これは土地登記簿、建物登記簿、これは
今まで土地台帳、または家屋台帳ということになつ
ておりまゝだが、名義がかわりまゝで、それだけ
の訂正でございます。

九九条でございますが、これは電気ガス税の徴収方
法、法第四八九条、これは電気ガス税の非課税
の範囲でございますが、これが今度拡大されまゝ
たゞで六項から一一項までを加えるということでご
ざいます。

議長(山本昇君)おはかりいたします。議案第六六号
討論省略原案通り可決いたしますことに決ま
る。ごうまいせんか。

(夏議なしと呼ぶ者あり)

議長(山本昇君)夏議なしと認めます。よって本案は
原案通り可決さします。

日程第七議案第六七号を上程いたします。

(書記朗読)

議案第六七号 昭和三七年度一二月に支給する期

末手当の特例に關する条例の制定
について

秘書課長代理(小倉澄男君)議案第六七号について
中説明申上げます。

この目的は第一条にうたつてございます通り、館山

市長、助役、収入役、並びに議会の議員、一般、取員の昭和三十七年一月一日に支給する期末手当につききいて特に定める条例でございます。

第二条におきまして、一般取員の期末手当でござい
ますが、市の給与条例におきましては、二二割、期末
手当が一七割、勤勉手当が加わりまして、二二割で
ございます。一八市連協を通じます。いろいろな
連絡調整によりまして、館山市取員組合からも
ぜひ三四割を支給してほしいというふうな要望も
ございまして、種々勸案いたしまして、結果、期
末、手当二四割、勤勉手当が五割、合計二九割を
ここに決定した次第でございます。

次に議会の議員でございしますが、条例によりまして
二二割が決定されておるようでございしますが、これも

取員と同額の二九割に決定いたした次第でございます。

それから第四条でございますが、これは吏員並びに一般取員が条例に明記してございますが、市長並びに助役・収入役、その他教育長、その他の一般取員で市庁給与条例を準用するという規定でございますので、この条例をうたいませんと支給できませんので、ここに設けた次第でございます。

議長（山本昇君）おわかりいたします。議案第六七号原案通り可決いたしますことにち異議ございませんか。（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（山本昇君）異議なしと認めます。よって本案は原案通り可決されました。

日程第八議案第六八号を上程いたします。

(書記朗読)

議案第六八号 起債について

・総務課長(山口実君) 議案第六八号起債について説明申し
上げます。

かねて館山高校敷地整備事業費といた一千万、一千万円起債を要望してまいりましたところ、今回一千万円の内示が参りましたので、ここにお願ひしようというものでございます。こゝは、校舍建築費、校地購入費、埋立工事費、こゝらに充当しようと考えております。次に船形港修築事業負担金、こゝも今回二百万円の決定内示が参りましたので、お願ひしようというものでございます。

次に利息の定率及び償還方法についてどうように議決をお願いしようというものでございます。

議長（山本昇君）おはかりいたします。議案第六八号
討論省略原案通り可決いたしますことに決
議ございせんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（山本昇君）異議なしと認めます。よって本案
は原案通り可決さした。

日程第九議案第六九号を上程いたします。

（三二番議員 鈴木孝君退席）

（書記朗読）

議案第六九号

山高等学校校地埋立工事請負

契約の締結について。

庶務課長（鶴沢貫寛君）議案第六九号について中説明
申上げます。

図面をつけてありますので中覧願います。

今回、工事請負をやろうというのは、右側の点々のある場所三〇二三坪でございます。こゝを四名の業者

を指名いたしまして、一月一三日現場説明、一日に入れたら、また結果、最低の大千葉建設が最低でございまして、こゝと、三百九十八万五千円で契約して工事を執行したいというものでございます。

なお、左側の斜線を引いてありますところは、第一次工事として現在施行中でございます。こゝは、建物を建てます関係で市長の権限内におきまして競争入札をいたしまして、やはり、大千葉建設が最低でありますので、現在こゝは、工事を施行中でござ

います。
・一五番(鳩田繁君)埋立除外地と申しますのは、契約がまだ整わない場所でございますか。

庶務課長(鶴沢貫寛君)埋立除外地と書いてございます。
一四二番地、こゝが新宿の加藤寅蔵所有の土地
でございますが、まだ代替地等の問題で交渉が成
まらなっておりません。現在交渉中でございます。

それから一四五八番地、こゝは国有地でございまして、
こゝも現在借用の申請中でございます。許可が参
つておりませんので、除外したわけでございます。

議長(山本昇君)おはかりいたします。議案第六九号討
論省略原案通り可決いたしますことに決ま
ります。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(山本昇君)異議なしと認めます。よって本案は
原案通り可決いたします。

(三二番議員 鈴木孝君着席)

日程第一、議案第七〇号を上程いたします。

(書記朗読)

議案第七〇号

一、取処理さく井工事請負契約の締結について

厚生課長(伊藤幸太郎君)七〇号について説明申し上げます。この契約につきましては、当初旧軍用施設の井戸を利用いたしたいということで予定いたしたわけでございますが、その後交渉、その他関係からいたしまして、右の井戸を使うのではなく、新たに掘った方がというふうな専門家の方たち意見もございまして、谷藤原の安西さんの田をむ借りいたしまして、この井戸をやりたいということでございます。ここにございすように日本地下開発と随意契約によりまして百五十六万五千円

をもつて「マメートル」の井戸を掘りたいというもので
ございますのでよろしくお願いいたします。

・一ニ番(嶋貫壮作君)口徑何インチですか。

・厚生課長(伊藤幸太郎君)一ニインチでございます。

・二五番(脇田順一君)ちやうど伺いたいのですが、我々も一
処理委員会であそこを最上のところと判断したので
あります。その後、水が非常に足りないという
評判がたつてゐる。たとえ井戸を掘つても足りないとい
うことが言われておりますが、果してこれを掘つた
ら大体当初の目的通りに水の心配はないという状
況になるかどうか。

・厚生課長(伊藤幸太郎君)只今の市債向でございますが
現在まだ完成いたしませんで水量検査の結果に待
つわけでございますけれども、地層の関係から、現在

の進捗状況からいたしまして、約二、五〇〇石から三、〇〇〇石の程度の水は、確保できるといふ予定で考えております。多分、大丈夫だろうといふことでございますので、水量検査の結果を待つて確定いたしたいといふことで考えております。

。二五番(協田順一君)この契約をする業者は専内家だろうと思いますが、やはり、あんなのちやうど、多分大丈夫だと思ふ程度のものですか。

。厚生課長(伊藤幸太郎君)その点は電探等も利用して、数字的のものも出ておりますが、先ほど申し上げましたように水量検査が終りまして、確定の数字が出ることを我々は今待つておるわけでございます。

。議長(山本昇君)おはかりいたします。議案第七号討論者略原案通り可決いたしますことに仰ぎ議ごぞ

いませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

・議長(山本昇君)異議なしと認めます。よって本案は
原案通り可決しました。

続いて日程第一議案第七一号を上程いたします。
(書記朗読)

議案第七一号

館山市域水資源の調査委託契約
の締結について。

・企画室長(谷貝茂生君)議案第七一号につきましても
先説明申し上げます。

本年度水資源調査をうけていただくために予算の方
も通していただろうと思いますが、この調査の方法に
つきましても何かにも、私たちも素人でございま
すので、果、或いは中央の通産省、厚生省、或いは

水道協会等にもいろいろ参りまして、御意見を承った
わけでございますが、普通水資源調査を頼む場合
には、何万トンの水がほーいから、確保するような調査
をーまぐ小というものが、普通でございますが、当市
につきまーまは、一応どの程度ものものがつかめるか
ということによつて、その後、計画というものを考え
て行きたいということ、で、範囲が非常に広くなるの
で、この調査について、どういふような方法をもつて
やつたら良いかということ、で、いろいろ中央の機
関の説明を求めたのでございます。その結果、大体館
山市域全般と申しまーま、やはり水の流れがある場所
を中心に考へて行かなければならないということ、で、一応
平久里川水域、長尾川水域、巴川水域、潮入川水域、
その他につきまーま、技術的に相手であつるところ

があれば検討していただくことにいたしてまいっても、只今申し上げましたようなところを一応中心にして、総体的に、経済的に使える水と一丁の量がどう位あるかということ、調査を頼むより、方法は無いだろうということ、大体、この経費につきましても、その規模によつてかわってくる。館山市の今の方法でいったら、ならばどう一丁も五億か六億位の範囲内のこととを考へて、やつて行かなければならぬだろうということから、さうしますと、参考資料を差しあげてありますが、大体百八十万からの費用がかつてくるのではないかと、いうことでございしますが、一応末端までの計画は今のところ考えられない。工事をやるとかやらないとか、いう問題も将来の問題で、今の段階では、どう位の水がつかめるかということ、が、問題でございしますので、さう

いうことでいろいろ検討して貰った結果百八十万位の予算がなくてはいけませんので市の予算の都合もございまして、百五十万程度でもってやっていたように交渉いたしました。この委託につきましては、競争入札ということがなかなかむずかしいがございまして結局その技術を買うアイデアを買うというふうなことからどこでも非常に信用のもてる会社と随意契約でやっておる。競争入札は無いことがないというところでいろいろ検討を加えまして、通産省水道協会等のお話では大体日本水道コンサルタント、東京設計事務所、日本上下水道設計株式会社がこの三つが特によろしいのではないかと、お話でございまして、この三つにつきましていろいろ検討して、市も公営機関でございしますので、公けにも大義

名分かつ会社でなければならぬということでも
 の会社を選定いたしました。理由といたしまして
 は、国の試験制度による技術士のいる会社である。
 そうして技術士の多い会社ということ。今までの
 実績等を勘案いたしましての結果、この東京設
 計事務所が一番適当じゃないうかということか
 ら随意契約をもちまして調査を委託して行き
 たい。こう考えるわけでございます。

。二七番（鈴木市蔵君）ちょっと伺つて見たいのですが、今の説
 明では川を中心にいた説明なんです。調査をす
 る以上は一つは目度といて中心のところをいさえ
 て、ここならばというところを見て、それから調査す
 ることが一つ。それと、館山市、金谷にわたって調査す
 るのが一つ。それから、今言った、川を中心にいさえた

のが一つというふうに分けて執行部としましては、どうい
うふうな考えであるか。またはダムの的なものを調査し
て水源をはかるか。それともどこを掘って見て調査し
て水というものに対してどう考え方を新たにしてい
くかを実行に移して行くか。この点を中説明願ひ
たい。

企画室長(谷夏茂生君)本年度の調査の方法としていま
は、一応地下水の調査と、それから表流水の調査、二
つに分けて考えておきます。

地下水につきましては五井に無形文化財指定の人が
おりますが、県ではその人を頼んでやっておりますが、
一応、その方にも来ていただきまして市内をくまなく見
ていただいたわけでございますが、その方は、今まで
推測がほとんどはずれたことがないというふうなことを

いってあります。

館山市の実績を見ますと、百トン

以上のところはきいでございまして、大体百トン出れば
相当出る井戸だというふうな状況でございします。そ

の方うや意見を承りますと、大体日本の土地は東
南に山があつて北に川が流れておると水が出る。例
を上げて見れば富士山を見て北の方に富士五湖があ
つて水があるけれども、や殿場の方には水がない。地
形から日本全国どこでもそういう現象が起きる
おる。それで館山市の状況をいろいろながめていただ
きました結果の言葉といたしましては、北に山をし
よつた南側は出がきない。地形地域ではあまり期待
できない。ほとんど各戸で使う程度の水しか得られ
ないだろう。西岬地区におきましては、大体館山
湾に沿った方は瀬南に山をいよつておる。北の地域

の関係上、ある程度の水量は確保できる。――カー、山に岩肌の出た場合、すぐに出なくなるというむづかしい場所だということを申しております。

特に千倉から鴨りにかけても地下水は期待できない状態だということで、地下水で大量の水ということはい困難だが予想されるわけでもございまして、中小企業の水を使わない会社、差当りわずかなものであるというならば、地下水を場所によつては、実態をつかんでおいて、さばにある水だけでまかなえるもうひとつの、小さいを、やつて行くとしても、将来、館山市が伸びるために相当の水量を確保しなければならぬ。――かりに現在のところ、一戸平均、大体水の消費量が一トンと言われているとおりです。従いまして、市街地四万人加えまして、将来の発展を見越して参りまして、ときには、大体

二万トンからう水が飲料水だけでも考えらる。

しかも市政の振興をはかるといふ面から、工業用水等を考へて参りますと、どうもここに四、五万トンの水が確保できないものだらうかということが考へられるわけでございます。地下水につきましても、先ほどのような現状でございますが、何とかダムに基いて大量の水が確保できないだらうか、まだ、けろり、調査してみようと思ふので、確實なことは、申し上げられませんが、せんに、畑地区におきましても、一応ダムを築けば百万トン以上の水量が貯水できるのではないか。一日一万トン以上の給水能力ができるのではないかと、それから、豊後地区におきましても、二三箇所、場所も考えられる。一、二、水を導く方法といたしましては、ダムを築つてその水をここに持つて

くるのに幾らの経費がかかるか。各個所の水をまとめて利用する場合にそのアイデアによつて経費というものに差が出てくるというふうなことから一応全市と申しましてもある特殊な地点だけ考えた場合に専門家といたしましても、我々考えない別の土地に安く取れる場所があるということも起きる参りますので一応表流水が中心になりそうでございます。この河川を中心にしてまゝ、表面の水につままゝ一応つかんで行きたいということから地下水と表流水関係の水を分けて調査をさしていただくたい。こう考えまあります。

。二七番(鈴木市蔵君)今の説明を聞くと地下水は館山市は見込みがない。川とダムを中心にして考えるべきだと、また今あんたの口から湧きますと、畑ということを聞いた

んですが、私が一番こわいのは、一尿処理場の問題の
ようにあつちでもだめ、こつちでもだめだと反対される
ことだ。水道資源も同じだ。現市長さんが豊房
村長をやらしたときに畑を水源池にしようということ
でやったときにあのまわりは全部反対だった。百五
十万という調査費を使つていよいよそこに水源を求
めようといったときに、その部落で反対したときにあ
んなは、どういふふうに考えるか、私はそれが一番恐
ろしい。百五十万の調査費を使つてだめになつたとい
うことがあり得るかも知れないということを考えるん
ですが、この点をよく研究してやつていただきたい。

・一二番（鳩貫壮彦君）市議論は確かにそう通りかも知れ
ませんが、調査をするに当りまして、調査をしていた
だく方の人と調査する方の人と両方の息が合わない

と、どうもうまく行かないと思います。そこでお尋ねするんですが、貴方方はどんな調査方法でやっていただくと
いうことを考えているか。それから、調査する方はど
んな方法でやっていくかということをお貴方方に明ら
かにしていただく、その点について伺います。

企画室長(谷貝茂生君) 一応調査するにっきまーまは、国
面上でもつて山の高低、川の流れ等を検討いたしま
す。地質等から大体ダムがどこが可能であるかとか、
ここは、適当であるとか、或いはどこをせきとめたら、
いいかということもいろいろ専門的に見方がございま
す。非常にむづかしいところでございますが……

一ニ番(鳩貫壮依君) 僕が聞いておるのは、頼む方の側は、
こういうふうに調査するも良しというのと、頼ま
れた方は、こういうふうに調査するといった、どつど

うな話―合いでやるか、それを聞いておきます。

企画室長(谷貝茂生君) 私たちの考えまおりましたことは例
えばある地点にダムを作った場合にどの程度う経費
でどの程度の水が得られるか、それからB点につま
まりては、どの程度水量があつてどの程度の経費で
得られるか……

一ニ番(嶋貫壮作君) 貴方方の調査する態度、方法と
いうものをどういうふうに予定してやるか、相手
方はどういうふうに予定しているか、それが合致したと
ころでやつてもらいたい。こういうために聞くんですから
その程度の話―合いがあつてやるべきだ、と思つて
おきます。

企画室長(谷貝茂生君) 調査地点といた―き―は、先
ほどの場所でございます。

・二番(嶋貫壮作君) あなたが予定している調査方法がある
でしよう。相手方の予定している調査方法があるでしよう。
それが一致した場合にそれならそういう調査方法でや
つていただきますというところが前提になるでしよう。
それなくしてむこうにまかせっぱなしだということでは、百
五十万円をむだに使うことがないとも限らない。それが
からお尋ねするわけです。

・企画室長(谷貝茂生君) 水量につきましても、できるならば
日産五万トン以上の水が確保したい。ーかも経済的
な料金で得られる水ということと、それから地区的
にこの程度の水がどの位の経費で得られるかと
いうことを、地区的に検討していただきたいという
こと、それから末端の計画は必要ないけれども、
山を中心までもつてくるまでの計画を一つつかみ

たい。

・一二番（嶋貫壯作君）打切ります。

・二七番（鈴木市藏君）一二番の箇所と私の箇所は同一
だと思ふ。

地下水には見込みがないと穴掘りの名人がいった。

館山市はダムと一マの水源を求めたいから頼むので
あるが、それともそういうことは考えずに勝手きまに
調査させるものであるか。その二通りだと思ふ。

・企画室長（谷貝茂生君）先ほど申し上げたように勝手
きまきというのでなく結局、こいだけの水という目標は
示さず経済的にサーでも多く今う段階と一マは水
は得たいのだということだ。ただ漠然と全域にまたがっ
てやることも困難だから河川を中心と一マ。

・二七番（鈴木市藏君）地下水が見込みがないとすればダム

ーか方法がない。考え方はダムより考え方がない。その場合にどういう方法で依頼するか。こういう問題なんだ。僕の質問は、

議長(山本昇君) 暫時休憩いたします。

午後 二時二五分 休憩

午後 三時三〇分 再開

議長(山本昇君) 休憩前に引き続き会議を再開します。

三番(三沢節君) 只今議題となつております。議案第七一
号につきまゝは、なお慎重に審査をいたしたいと思
いますので、関係の総務委員会に付託いたしまして
極めて詳細に検討していただきますとともに、来る
一月の臨時市会までに審査を終わらせるよう特に肉

会中の特別付託をうけますように議会運営協議会を代表いたしまして動議を提出いたします。

(賛成と呼ぶ者あり)

議長(山本昇君)只今の動議を議題といたします。

議案才七一号を総務委員会に付託し一月の臨時会議までに審査を終り報告を願うということとで本会中審査の特別付託をいたすことに仰異議ございませんか。
(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(山本昇君)仰異議なしと認めます。よつて以上の通り決定いたしました。

日程第一二議案才七二号を上程いたします。

(書記朗読)

議案才七二号 昭和三七年度館山市歳入歳出追加更正

予算

秘書課長代理(小倉澄男君)議案第七二号追加予算につ
きまして、歳出の入件費関係につきまして説明いた
します。

各款内の取員手当、これは先ほどの議案第六七号
におきまして、審議をいただきました期末手当の
特例に対する一七割しか組んでございせんので、その
ほかに對しての追加分を各款別に追加いたしまして
その総額八百四十六万六千円、そのうち、取員手当
のうち、故市民課長補佐でありました山根主事
への退取手当が百七十一万二千円、それに各款の超
勤を約三十万ほど追加更正いたしましてございます。

・総務課長(山口実君)歳出の方から、説明申上げます。
二款市役所費、旅費でございしますが、現在、普通旅
費として一月十四万程度の支出をしております。

現在の状況を見ますと、一ヶ月分不足の予定でございまして、ミミに十五万円計上をお願いいたしております。次に需用費一三節光熱水費、電気料は現在一ヶ月五万円程度支出しております。二ヶ月分の不足を見込みまして、十万円計上いたしております。

通信運搬費でございしますが、一ヶ月五万円程度の支出でありまして、一ヶ月分不足を見込みまして、五万円計上いたしております。

・建設課長(新井重助君)土木費について、や設明申上げます。道路橋梁費にございまして、一日維持修繕費に原材料費八十万円を追加いたしております。一二節燃料費から十万円を減額いたしまして、八十万の追加でございまして、なお原材料でございしますが、最近の雨によりまして、道路が非常に痛んで参りました。先般の議会にもち

まして、八十万の追加をいただい費たうでありますすが、なお不足いたしまして、今回八十万追加をお願いいたした。三月から現在まで砂利を購入いたしまして、六九万五方メートルでございます。三百五十二万円を使っております。

失業対策事業費でございますが、一般失業者にも年末手当を支給することになっておりますので、ここに報償費九万三千円でございしますが、これは一人当り三百九十六円の一八日分七千百二十八円を年末手当として支給するので予算が足りませんで追加をいたしております。

・庶務課長(鶴沢賛覚君)第五款教育費について(中)説明
いたします。

教育委員会費におきまして、取員手当、これは先

二 自由市 請書
ほと秘書課長から説明のあった通りでございます。
取戻厚生費、災害補償費 三万五千円、療養補償
費でございます。これは市営プールに勤務して
おります監視人が公務のためけがをいたしまして
のための療養補償費でございます。

交際費で十万円を追加計上いたしました。これは、
館山高校敷地買収に伴います買収委員会並びに町
村長との折衝による交際費が不足いたしましたので
追加いたしました。

小学校費の営繕費二十万円工事請負費で計上いた
しました。これは、富崎小学校講堂給食室の増
築をたてに行なっておりますが、この給水施設とカ
マドの施設従来は薪でやっておったのですが、従来
員の健康管理から今回、重油の施設をいたいたいと

ためにこの額が不足いたしますので二十万計上したわけでございます。

中学校費で需用費光熱水費十二万円電気料を計上いたしまして、これは技術家庭科の実習のために電気料が不足いたしましたので追加計上いたしました。高等学校費で取員給の吏員給七万五千六百円教諭給を追加いたしました。これは先ほど定数条例の改正をお願いいたしました養護教諭の三ヶ月分の給料でございます。

需用費で四十万円の追加でございますが、これは今回館高に理科振興法によります補助金が二十万円内示がございまして、これに同額の市費を加えまして、四十万円を追加いたしましたわけでございます。

営繕費におきまして工事請負費で百三十万円、

追加でございますが、これは工業化三学級新設に伴います三七年度の建築費でございます。当初予算におきまして四百六十四万円を計上してございます。これを二階建四教室、それから便所をブロックで一八坪渡廊下九坪合計一四七坪の建築費でございます。

現在埋立てとなっておりますものと建てます関係で基礎を十分にいたさねばならない。そういう関係で百三十万不足いたしまして参りますので、今回これを計上したものでございしますが、財源といたしましては、館山高校のP.T.Aから寄付をあおいた次でございします。

社会教育費におきまして報償費三万五千元、講師謝礼と一万円、成人式の講師謝礼、それから青年祭参加報償費と一萬二千五百円、貸金で三万円、こ

これは、社会教育課の取員が産休を取らなければならぬので今回臨時用入料として追加いたしまして。あと青年学級の吏員給、体育費の旅費、その他財源を更正して必要財源に充てたわけでございます。

・厚生課長（伊藤幸太郎君）保健衛生費について説明申し上げます。
処理場の工事費のうち補償金及び補てん金、四十五万五千円の追加でございますが、これは土地使用の補償料でございます。という方は、市承知の通り処理場から出ます処理水は山の上にあげまして灌漑用水にという予定で進んだわけでございますが、時期によりましては、その処理水が余ってくるというふうなことで貯水槽を依りたい。その畑のいわゆる補償、それから井戸の敷地の田の補償、処理場の道路の補修に山林の一部を削りましてたのでその関係の補償、合わせまして約

七反歩の補償料、当初二十五万計上いたしましてありますが、不足の四十五万五千円を今回お願いいたしたい。積算の基礎といたしましては、山林、田、畑おしなべて平均反当十万円割をもつて補償いたしたいというものでございます。

・農産統計課長（吉田耕一君）産業経済費につきまして、中説明申上げます。農業委員会費におきまして十セ万円の追加でございますが、取買手当り十二万円先ほど説明がありましたので省略いたします。

交際費の五万円、先般小滝農業委員長がなくなりまして、それに委員会葬を行なったわけでございます。一、二番典といたしまして三万円差上げたわけでございます。

交際費の中からそれに必要な経費を支出いたしまして

一、五万円程度の不足をきたすということとで追加を
お願いしようというものでございます。

次の農林費でございますが、六万円お願いいたしまして
こいは農村青年の活動育成事業というものを現在
在実施しておりますわけでございまして、三四年に青年
建設班を組織いたしまして二ヶ月の研修を行な
ったわけでございますが、その解散後新しい青年
同志会というようなものが結成されまして現在三
五名程度の組織をもつわけでございますが、そうし
たものが体育、研修或いは農業関係の研修会を
時折り開くわけでございまして、こいに対する事
業の育成費といたしまして今回六万円を計とい
たしまして支出いたしたい。なお半分の三万円につ
きましては、県の方からの育成事業費として歳入

されております。

。商工水産課長代理（島山市役所君）観光費について説明いたします。

今回需用費として四百六十一万、調査費として七万二千円計上されていただきました。その内訳は委託費で一万、これは冬期の観光宣伝の委託料でございます。

負担金の四百六十万昨年度鳩山荘からも定額にかけられました道路に就いて今年四万メートル幅五メートル五メートル詳細につきまします。目下厚生省で検討中でございますので省略いたします。

。総務課長（山口実君）九款財産費について説明申し上げます。

三七節積立金に十三万四千六百円計上いたしました。

これは収入役の手元で保管してあります。一般会計並びに特別会計の公金の小額口座が六つばかりあったのでございます。それを整理いたしまして一般会計に入れましてこれを財政調整積立金として積み立てようというものでございます。

次に財産管理費について申し上げます。三三節保険料でございますが、この保険料は今回厚生課でもって購入いたしまして新車三台分にかかわる保険料と賠償責任保険料でございます。

。財産課長(吉田耕一君)統計調査費につきましてや説明申し上げます。

今回二万四千七百円をお願いいたしました。

これは工業統計調査員一七名、中小企業総合基本調査員が二名、合計一九名の調査員をも

ちまうこの二つの調査を実施するわけでございます
ー、これに伴います報酬といふところ二万四千
七百円をお願いしようというものでございます。

・選挙書記長(大嶋重義君)一三款選挙費について、中
明申上げます。

参議院議員選挙費でございますが、旅費と需用費
において追加更正いたした。旅費は、四万円でござ
います。これは、先進地の視察その他、旅費等ござ
いませんで、その追加でございます。賃金は臨時用
人料でございます。

食糧費は選挙事務に従事した人に対する慰労
料でございます。この財源は、二五節備品費に余剰が
生じましたのでこれを充当しようというものでござい
ます。

・税務第二課長(多田俊一君)一三款諸支出金について、説明

消耗品で一万円、臨時用入の賃金といまして二万円
市税還付金として大体一万円、合計四万円になりますか
この財源といまして、旅費から二万八千円、更正
して充当しようというものでございます。燃料費の
一万二千円も充当したい。このように考えまわら
ます。

・総務課長(山口実君)歳出合計、前回まで五億千五百六十三
万五千四百二十四円、今回追加額千六百八十五万六千四百円、
合計五億三千二百四十八万六千二百四十円、
次に歳入に移ります。

二款国有提供施設等所在市町村助成交付金でござい
ますが、今回二百五十七万円の決定が参ったのでございま
すので、この不足額五十七万円を計上いたしまして、
次に四款公営企業及び財産収入でございます。

三節の電信電話債券収入といたより一百万円計上
いたりました。これは債券で償還の参つたものが
ございましてたので元利合わせて一百万円のものでござい
ますのでこれを計上いたしました。

次に七款国庫支出金について説明申上げます。

二節の理科教育設備費補助金でございすが、こ
れは只今歳出で説明いたしたもうでございします。

八款県支出金について申上げます。七万九千円
の追加をお願いいたします。これは五節失業
対策費補助金、四万九千円、農林補助金、三万
円でございます。

九款寄付金といたより、百三十万計上いたりました。
これは教育費の歳出で説明のありました徳山高校校
舎増築に伴うP.T.Aの寄付金でございします。

一、款繰越金として三百五十五万三千円計上いたしました。これは、前年度の繰越金三千八百三十九万三千円のうち、財源といたしましてここに三百五十五万三千円計上したものでございます。

一、二款雑収入でございますが、これは、只今、財政調整積立金のところで説明いたしたとおりでございます。一、三款市債について申し上げます。消防債について百万円減額いたしました。これは、予定してまいりました。消防自動車購入費の起債、二百万が切られまして、そのかわりに庁舎建設費といたしまして、予定してまいりました百万円が参ったので、その差額、百万円を減額いたしました。もうでございます。

次に教育債でございますが、これは、釜山高等学校整備費として、一千万円定いたしましたので、ここに計

上するものであります。

次に産業経済債といつたところ二百万円追加をいた
しつゝ、船形漁港修築事業に伴う地え負担金
といつたところ、県からの起債二百万円が内定したので
ここに計上した次第でございます。

歳入合計 五億三千二百四十八万六千二百円 歳入
歳出差引き残金でございます。以上でございます。

。二五番(脇田順一君)建設課長に伺います。

失対労務者に対する報償金九万三千円計上してあ
ります。これは市からだけでなく、国・県からもあ
りますね。そうすると失対労務者や一世帯当りとい
う位に暮らして貰ふといふか、どうした金が入り
ますか、それをお尋ねします。

。建設課長(新井重助君)一般労務者に対しては、年末

の贈給金というのがございます。

これは普通の賞与でございます。三百七十六円の
一三日分を支給する。この支給額五千円ちゅうと
でございます。ことうち三分の二は国庫補助
三分の一が市費でございます。

そのほかさらに報償費でございますが、三百九十
六円を基本としてその一八日分七千百円あまりで
ございます。これは県費が半分、市費が半分、
統計いたしまして一世帯一万二千円ちゅうとわたる
わけでございます。

・二五番(脇田順一君) 国も入りますか。

・建設課長(新井重助君) 先ほど申しました一三日分の
ものは三分の二が国でございます。

只今の報償費は、県と市だけでございます。

二 資料
受給対象人員は、館山市の場合、三一人でござい
す。

二五番(脇田順一君)福祉事務所長に伺います。生活
保護を受けている者にはこの暮にさうした賞与的
なものはどう位入りますか。

福祉事務所長(長谷川広治君)一人当り二百十五円、
男女年令等はなく二百十五円ずつを支給する。
こういうことが規則にあります。

二五番(脇田順一君)それから、生活保護を受けてはいないが、
それ以外に在る困窮家庭、いわゆるボーダー・ライン層
というか、それが一戸当りどう位もらえる見通しですか。
福祉事務所長(長谷川広治君)これは都市によつて募金
の額等が違いますので今年は最低一人、六百円と定
めまして、それから千五百円止まりのものを差上げら

かように考えております。

。二五番(脇田順一君)失業対策の労務者の一万三千円に比較しますと、生活保護を受けるもの、更にはその下にあります。いわゆるボーダー・ライン層という人たちが非常に恵まれない実情にあることは、それを考えてもはつきり言えると思います。生活保護を受ける人もそうでしょうが、ボーダー・ライン層というのは極めて気の毒な人たちだと思っております。

例えは、子供をかかえて生活保護を受けなければ肩身が狭いから、といったようなことから細々ながら内職に精をだしている人がたくさんある。昨年でも三ヶ月世帯あるという市長さんの言葉があつた。それが市民の暖かい歳末助け合いにするものを加えても千円に過ぎないかならないという姿なんです。

二 日 記
そうだとすれば何とか市と一マも暖かい心を加えてやるのが各都市の通例のことであります。そういうふうな階層に対する市の方暖かい心はどこ市でもやってゐるのだが、館山市が一番低い状況であることは私調査したときさうであつた。六百円というところはありせんぞ。さうした歯を食ひっぱつてやつてゐる階層のために市長が餅一つも食べささるやつてくれということまでせめて二三千円ものをも届けられなければ、どんなに彼らは慈悲あふれる行政に感謝する組織を作つて要求する人に対しては、かなり難得できるが無組織で困窮している人は受けるか受けないかということまで、さう処置が不十分だ。

最近、生活保護を受ける人にはテレビはぜいたくだから売れといったような係員がいつて売り込まで

見つけてやるからというて売らされたという話を聞いた
テレビはぜいたく品でしうか。全国でテレビの普及率
は八五%。八五%の国民が利用してゐるものだが困窮
家庭にたまたまおどさんの暖かい心で備えたテレビ
がぜいたくだということでは係員にきびしく糾弾さうな
ものを売らせるような姿が現に行われてゐる。文化的
な健康的な最低生活を国は憲法でもつて保障し
てゐるではないか。さうなことで、既に福祉関係の
取置はよく取置でないと私は考える。さういふことは
この市にもありますね。この市でテレビの普及率
は五〇%以下ですか。合せてさう言つて説明願ひ
たい。それからこの際、さういふ階層に暖かい心を
示すお心があるかどうか。

。福祉事務所長（長谷川公治君）市で多少考えてやつたらどうか

こういう点については、出さるまいというふうな考え
があります。

テレビの問題につきましては、私どもいろいろの調査をい
たしますので、概念的にテレビは許すとか、売却さ
せるとかいうことは一概に申し上げられませんで、原則
としてテレビは現在の生活保護を受けている
段階に於いては好ましくない。こういう見解でござ
います。只、その売却をさせるとかさせないとかいうよ
うなものはない。地域の状態と申しますか、同じ
館山でも地域によりましてはテレビの相当入ってい
る地区と入っていない場所があるわけでございます。
そういったものを基準にいたしまして、大体テレビは好
ましくないという判断をいたしましておるわけでございま
す。私も私どもの方でどこへ売却という売却先まで見つけ

てやったことはないというふうに考えておりますが、もうそういうものがあつたとすれば売り先をみつけるということは行き過ぎであるというふうに考えます。

この問題は国の方でも取り上げられております。

現在の段階から考えますと私の方ではテレビは好ましくないというふうに考えております。

。二五番(協田順一君)何とかするつもりだということとはまこと結構ですからその通りにやっていたべきだと思います。

国の方がそうだからといってある程度の事務裁量は認めらるゝものであるであつて紋切りの要保護の家庭に於いては、テレビはぜひいたくだということではなく、官吏は法律に支配されるというより法律を自分で操縦する。そういう法が生まれてくる。そういう点

は弾力性ある処置をお取り下さるうに希望いたします。

議長(山本昇君)おわかりいたします。議案第七二号討論省略原案通り可決さした。

日程第一三議案第七三号乃至第七六号を一括上程いたします。

(書記朗読)

議案第七三号

昭和三七年度館山市特別会計国民健康保険歳入歳出追加予算

議案第七四号

昭和三七年度館山市特別会計と畜場歳入歳出追加予算

議案第七五号

昭和三七年度館山市特別会計波左間及び加賀名地区簡易水道事業歳入歳出追加予算

議案第七六号

昭和三七年度館山市特別会計休養施

設歳入歳出追加更正予算！

・保険課長（神作次郎君）七三号議案について申し上げます。
歳出一款役所費で三七万七千七百円追加をお願いいた
しました。

諸手当は省略させていただきます。五日の需用費で
十八万六千円をお願いいたしました。九節の賃金で十
三万五千八百円、これは来月四月から被保険者の
更新をするよう県から指示がございまして、新
しい仕事になるために臨時用人を雇上げて、この仕
事を完成しようというものでございます。

一節の消耗品費一万八千円、宛名印刷カードが大
分欠乏になりました、これを一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、
かように考えております。

一四節印刷製本費二万六千八百円をお願いいた
ました。

交際費二万円、国保運営協議会長の交際費が
不足を生じました。非常に県外から国保運営
の視察の来客がありまして、不足を生ずるで
お願いしたわけであります。

三款保健施設費、燃料費、保健婦のスクーター
の燃料費が不足いたしましたので、お願いいた
す。諸支出金、負担金補助、及び交付金、二万八千三百
円、これは、安房地区の保健施設連絡協議会の
負担金一万五千五百二十円、国保制度体質改善
対策推進運動負担金六千五百五十円、これは、三
七年度の二二月に三八年度に向つて国保の法改正
正、或いは、国保補助金の増額をけるための運

勤の特別の負担金でございます。

次の県下回保団体連合会の負担金六千二百三十円、当初一入四円を見込んだのでありますが、その後四円二十銭に増額してもらいたいということでは不足を生じたので、お願いいたわけでございます。

次に歳入九款繰越金三十一万四千四百円、歳出に対する前年度の繰越一をもつて充当しようというものでお願いいたわけでございます。

続いて直営診療施設勘定について、中説明申上げます。

一款施設費、事業費で十五万六千三百円、報償費二万五千円、非常に診療所の利用者が多くあり、そのために大きな手術をするために先生をお願ひするの、三月までに不足を生ずるの、で、お願

いた次第でございます。

九節賃金九万千三百円臨時用入の増員をお願
いしました。光熱水費電気料の不足を生じま
たのでお願いしました。備品費七千円。これは器
材費の購入費、医療費五万円、二五節備品費
五万円、手術用のメス、手術したあとのものと手
術の器具をやる消毒台でございます。

以上追加額二十万六千三百円。

次に歳入に移ります。繰越金二十万六千三百円
これは前年度の繰越金をもつて充当しようとい
うものでございます。

・厚生課長（伊藤幸太郎君）七四号議案でございますが
人件費の追加でございますので省略させていただきます。

簡易水道の追加でございますが、旅費光熱水費の不足
分と水中ポンプの修理の見込み額十五万円を追加いた
したいとの財源といたしましては寄付金並びに課税
金をもつて充当しようというわけでございます。

。商工水産課長代理(島山市治郎君)七六号でございますが
こゝは、鳩山荘の取員が増員されました関係で給料
に不足を生じましたので、需用費から更正して充当
しようというものでございます。

。議長(山本昇君)おはかりいたします。

議案第七三号、第七六号原案通り可決いたします
すことにや異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

。議長(山本昇君)異議なしと認めます。よって四議案
は原案通り可決されました。

この際、中報告申し上げます。先ほど決定された
一、た決算審査特別委員会の正、副委員長は
互選の結果、委員長鳩貫壯作君、副委員長
松本藤太郎君に決定されたので、中報告申
上げます。

おはかりいたします。本定例会に付議された議案は
すべて議了されました。ふつて会議規則第一条の
規定により本日をもって閉会いたしたいと思います。
これにて異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(山本昇君)異議なしと認めます。ふつて本定
例会はこれにて閉会することに決まりました。

午後四時二六分

閉会

本日㇔會議に付ゝた事件

一議事日程に同ト

出席議員

山本

昇

石井

孝

三沢

節

小林實之助

江田徳太郎

鈴木彦太郎

吉田勇治郎

佐野信

嶋貫壮作

安沢徳順

法木嗣郎

嶋田繁

遠山ヨネ子

志村信作

安西政治

田中忠蔵

北山茂雄

後藤ゆづ

田中 禄郎

吉田 辰雄

脇田 順一

岩崎 静敬

鈴木 市蔵

加藤 良太郎

萩生 田七郎

長谷川 光江

田村 喜兵衛

鈴木 孝

山口 幸三

松本 藤太郎

黒川 佐太郎

山口 康

昭和三十七年十二月二十五日

右会議の次第を録しここに署名す

館山市議会議長

山本 日外

同

署名議員

鈴木 康太郎

同

小林 寅之助

